

## ～上野の家～

### 共に暮らす

上野の家 石黒 静子

ライフサポートりんどうから20分程急な坂道を登ると、緑に囲まれた閑静な住宅地が目に入ってきます。そこから10分程歩いたところに借り受けた平屋建て3棟で、5名の利用者が共同生活を始めて半年が過ぎました。

利用者は、全員援護寮の経験者ですが、私との接点はほとんどなかったため、最初のうちは遠慮があったかと思います。また、トイレ、風呂、水道等の改修工事を含む生活環境の整備もありました。

そうした不慣れな、かつ、不自由な状況下ではありましたが、私としては全員が居心地良い暮らしをして頂くために、物ごとを利用者が自ら決定し、それに基づいて行動していくといった環境づくりを心掛けました。当初から毎夕食前に行っているミーティングをそうした話し合いの場として位置づけました。夕食当番が順番に司会をし、困っていることや、その日の出来事、また翌日の予定などを他の利用者に伝えることにより、共に考えたり、情報の共有を図っています。

生活に切り離せない「住居」を考えたとき、安心居住の確保は豊かな生活の基盤となります。地域に根差した生活を営むために、地区清掃をはじめ各行事などに積極的に参加してきました。それは、地域の方々とコミュニケーションがとれる良い機会となっています。

共同住居では、施設とはちょっと違う開放感を味わうことができます。が、同時に責任も伴います。食事の仕度や共同スペースの清掃などを協力し合ったり、また、体調がすぐれない時は、仲間が居るので孤立することなく、支え合う姿もありました。

利用者は、スタート時からの困難を頑張って乗り越えました。現在は生活も落ち着いてきて目標も様々です。

ご支援、ご協力くださった皆様、有難うございました。今後共どうぞ温かく見守ってくださるようお願い申し上げます。

### 半年をふり返って

金子

ぼくにとって、この「上野の家」の半年は、ほんとうに、あっという間でした。

「上野の家」に入るまでは、仲間の人達とうまくやっていたか、心細かったのですが、みんな気のいい人だとわかって、一安心したのが、スタートでした。

以後、毎日がスローステップに通ったり、食事のための食材を買いに行ったりの日々が始まりました。

しかし、毎日うまくいったり、楽しいことばかりではありません。時には、自分勝手な行動をして、たしなめられたり、仲間からおこられたりとかも、あったのです。

これから、先は長いのですが、少しでもこの気のいい連中と時間を共有したいものです。

頑張ります。

### 半年を振りかえって

利用者

「援護寮」を退寮して「上野の家」に来て、早くも半年が経ってしまいました。振り返ると楽しい半年でした。

「上野の家」に住んでまもなくメンバーの2人の誕生日会があって、ごちそうにありつけました。始まったばかりなのに、なぜかオフコースの『さよなら』を棒読みしてみんなで大笑いしました。

その後共同スペースに27インチのテレビが入り、毎日夕食の前と食事中に楽しく5人で過ごせました。その後夕涼みパーティーをやって花火をやって、楽しかったです。共同スペースには扇風機が2つになって、暑い夏を凌ぎました。

その後「援護寮」と「とくまの家」と「上野の家」の合同のバーベQをりましたが、あいにくの雨で途中で引き上げました。でも楽しかったです。

そして現在は冬にさしかかっています。が、なんとか楽しく過ごしたいです。

## 共同住居に住んで

K・M

共同住居に5月4日引っ越して、半年過ぎての今の素直な気持ちは、「安心して毎日を送れる」です。最初のころは、何かしら不安な気持ちになったり、一緒に住んでいる利用者との間でぎくしゃくした気持ちになった事もありました。

しかし、色々会話や当番の仕事をして来て、徐々に落ち着いて来ました。不安がなくなって、食事当番やゴミ当番もきちんとできるようになって来ました。共用部分のそうじや買い物当番もリラックスした状態でできています。一人だけで頑張るよりもずっと気持ちは楽です。気持ちだけでなく、体調も一人暮らしよりもずっと良いです。共同住居に住んで本当に良かったです。

## 「上野の家」からの通所がよい

S・S

私は、2003年の5月に「援護寮」から共同住居「上野の家」に引越しました。

「上野の家」は、ライフサポートりんどうよりも高い所にあるので、坂道が多いです。公園も近所に三つあります。坂道を「通所授産施設」まで通うと歩いて片道30分位かかりますが、散歩好きの私にとっては楽しい出勤です。春にはアイリスが咲いて、夏には「昭和の森公園」の噴水が涼しげです。秋には枯れ葉が舞い落ち、紅葉が美しい季節です。

「通所授産施設」通いの最後の季節の残りは冬です。この一年が、無事に通えるようになったら、一歩ぐらいの私の目標「自立」に向けての自信になると思います。

## 上野の家での六ヵ月

遠藤 将 登

「共同住居」ってどんな所なんだろう？「上野の家」に入る前は色々な不安と期待が入り混じってました。そして入居……1ヵ月目、色々な工事や人間関係があり、ちょっと落ち着きませんでした。2ヵ月目、段々と仲間や石黒さんの事が分かって来ましたが、ちょっとした意見の食い違いもありました。そして3

ヵ月目、仲間や石黒さんとも色々な話などが出来るようになり、通所授産施設にも行けるようになりました。4ヵ月目、大分、仲間や石黒さんとも信頼関係が出来て、笑いの絶えない「上野の家」になって来たぞ。5ヵ月目、こんなに「上野の家」って住み心地が良いんだって安心し、仲間や石黒さんの良さがひびひと伝わって来ました。そして今、石黒さんや仲間達の良い所、そして、自分の長所も伸びて来て、みんなが掛け替えのない仲間になってきました。

最後に、みんなありがとう。これからもよろしくお願ひします。

## 「県外先進施設研修」に参加して

### 「ゆりの木の里」を視察見学して

職員 大日方 義 幸

「ライフサポートりんどう」が開設して4年目を迎え、初めて職員が県外の先進施設の視察研修をすることになり、3班に分かれて実施致しました。

第1班職員10名は、10月31日に社会福祉法人富山県精神保健福祉協会が運営する「ゆりの木の里」に視察研修を行いました。

「ゆりの木の里」の統括施設長から施設の設立の経緯から始まり、施設全体の概要について説明を頂いた後、施設内を見学し、その後各施設毎に分かれて職員相互の情報交換を行いました。本稿では強く印象づけられた事の1つである施設創立期についてその概要を以下に記すこととします。

平成6年頃の富山県の精神障害者社会復帰対策は、全国ワースト1桁前半の状態であった。当時の厚生省の指導を受ける程であった。14名の検討委員により県レベルで精神障害者支援施策の推進に向けて行動が開始された。その結果、①利用者の対象を全県下とする ②医療を抜きにし、福祉中心とする ③複合施設とする、の基本方針が答申された。

第1段階は土地探しから始められたが、困難極まる状況にあったとき、精神科医F氏の「私有地を提供してもよい」との篤志により、ようやく現在地を入手することが出来た。次段階で地域住民の合意を得るべく説明会を反復したが、差別偏見により合意は得られなかった。その後の各戸訪問の展開・マスコミによるクローズアップ・身体障害者の方々の支援等を得て、順次地域住民も耳を傾けるところまで進捗させることができた。しかし、地域住民からは開設にあたっての条件として、①公民館を建てる ②事業の拡大をしない ③地域との交流を目的とした地域交流施設（体育館）を建てる ④地域の避難場所とする等が提示され、基本的にこの条件を全部受入れ平成8年の着工となる。

県立として平成9年に開設し、運営については現在も県が大きく関わっており、富山県下の精神障害者社会復帰施設への指導的施設として位置している。

上記のように施設建設時に大変苦勞をされたお話を伺いましたが、当施設においても同様に地域住民の反対があったと聞いており、地域社会における精神障害者への正しい理解のための普及啓発の重要性について改めて考えさせられました。

### ワーナーホームを視察して

職員 坂 井 杏 子

平成15年11月7日・8日にかけて、ワーナーホームへ視察研修に出かけた。総勢10名で理事長以外、各施設長、スタッフの方々のお出迎えをうけ、施設の概略に始まり実際に見学させていただく中で貴重なお話を聞かせていただいた。

ワーナーホームを視察し、実感したことは施設の理念、方針がしっかりと定められているということだ。スタッフ一同が一つの理念、方針に沿って様々な活動を展開しているので利用者もそれに納得し、安心して利用できるのだと思う。今後はこういった施設も「これが売りです」というようなアピールを利用者にしていかななくてはならないと感じた。利用者に対する姿勢なども、言われてみると確かにそうだ、と目からウロコが落ちる気持ちだった。この視察研修を通して、初心にたちかえるような新たな気持ちを抱いた。

## あげお福祉会を視察して

職員 桜井 健太郎

この11月14日に、埼玉県上尾市にある社会福祉法人あげお福祉会へ視察に行き参りました。同会は市内に通所授産施設と地域生活支援センターの複合施設、さらに共同作業所を2箇所運営しています。特筆すべきは複合施設の建物の広さであります。その建物は上尾市の所有地であり、平成14年の同会運営開始に伴い、市が全面改修の上、同会に無償貸与されているとのことでした。

施設内見学の後、懇談会の形で説明と情報交換を行い、その中で、それぞれの施設がそれぞれの施設の役割を明確にしながらい支援を組み立てている姿が伝わってきたように思います。同会が運営を始めて2年目であるにもかかわらず利用者数はかなりの数にのぼり、支援活動プログラムも充実しつつある現状にはただただ驚嘆するばかりでありました。

視察研修は今年で初めての取り組みということですが、当日参加者一同、たくさんのおみやげを持ち帰って来られたように思います。

## トピック ① 佐渡旅行

### 全員参加の佐渡旅行

職員 荒井 純子

7月24・25日の一泊二日で「援護寮」の利用者16名、スタッフ9名、ボランティア1名で佐渡へ行きました。

利用者の方の中で「佐渡旅行委員会」を発足し、委員の方を中心に佐渡旅行の計画を立てていただきました。委員の方の中で特技を生かしてパソコンで「みんなで楽しく佐渡を満喫しましょうツアー～'03夏の旅行 in 佐渡～」という表紙で17ページにわたるしおりを作っていただきました。そのしおりを読むだけで、「早くみんなで旅行へ行きたいな。」と思いました。

旅行の日が近づくにつれて、佐渡へ行ったことのある人もない人も旅行で使う水着や帽子、サンダルなどを買い指おりかぞえ旅行を楽しむにしていました。

#### ＜1日目＞

りんどう→直江津港フェリー→小木家で昼食→新穂村トキの森公園→大佐渡スカイライン→佐渡尖閣湾海中透視船→ホテル（温泉・佐渡おけさ・夕食）という計画でありました。

雨天のため結局、小木家で昼食をとり、新穂村トキの森公園でトキを見ることしかできませんでした。初めてトキを見る方が多く、黒、ピンク等のトキがおり、きれいでした。

ホテルにて、温泉に入りゆっくりできました。

#### ＜2日目＞

1日目に行けなかった佐渡尖閣湾海中透視船→達者海岸で泳ぐグループと台ヶ鼻、夫婦岩までドライブをするグループに分かれ行動→小木家で昼食→フェリーで直江津港まで→りんどう帰寮。

2日目も天候が悪く寒い中、私は達者海岸で泳ぎました。海の水が冷たく利用者の方々と「冷たい～」とさげびながら泳ぎました。風邪をひきそうなくらい寒かったですが、皆笑顔がこぼれ、楽しかったです。

旅行当日は、あいにくの天候ではありましたが、「援護寮」の利用者が全員参加し、利用者同士で体調を気遣い合い、利用者の方は、委員の方に協力をし、旅行を楽しむだけではなく、利用者同士の絆が深まった気がします。

「援護寮」の全員で、海の幸を味わい、佐渡の自然にふれ合い、天然記念物の「トキ」を見ることができ、みんなで共通の時間を過ごすことができ、大変良い体験ができたと思います。また、「援護寮」全員でどこかへ行きたいと思います。

最後に中心となり、佐渡旅行をすすめてくれた委員の皆様、ありがとうございました。参加された皆様、ご苦労様でした。

## 全員参加の佐渡旅行

佐渡旅行実行委員 K・T

佐渡旅行出発時、長野は天気も良く絶好の旅行日和となりました。龍野施設長によると、メンバーが全員そろって旅行するのは初めてとのこと。皆、楽しい旅行になるように期待に胸をふくらませていました。今回の旅行の主な目的地は、新穂村トキの森公園、大佐渡スカイライン、佐渡尖閣湾海中透視船、達者海岸でした。まず、トキの森公園では、ほとんどの人が望遠鏡を通してとはいえ初めてトキを見たことあってその美しさに皆感動していました。いつかトキが佐渡の空を自由に飛ぶことができる日がくればよいと願わずにいられませんでした。その後、絶景ポイントと聞いていた大佐渡スカイラインへ。長野とは違って霧が濃くなり、雨も激しく降ってきて、景色をながめることも記念写真を撮ることもできず残念でした。そして、1日目の最終目的地である海中透視船に乗船する予定でしたが、雨の為、海中の透明度が悪く乗船を2日目へ延期し宿泊地へ。宿泊先では、佐渡の特産の食事を堪能し、佐渡おけさの踊り方を教えてもらう等、楽しい夜を過ごしました。

そして2日目。昨日乗れなかった海中透視船へ乗船。船の動きに合わせてクロダイやフグ等がたくさんついてきて、迫力があり、楽しめました。そして達者海岸へ。曇り空で寒かったためか私達以外誰も海岸にいませんでしたが、それでも私を含め5名程度が海水浴へ。寒さに震えながらも浮き輪につかまってプカプカ浮いて楽しんでいました。海岸に残らずにバスでドライブを楽しんでいた人達と合流して、昼食をとり、お土産をたくさん買って帰寮へ。

天候には恵まれませんでしたでしたが誰もケガすることなく、無事に旅行を終えることができ、思い出に残る旅行になりました。

## 初めての施設旅行に参加して

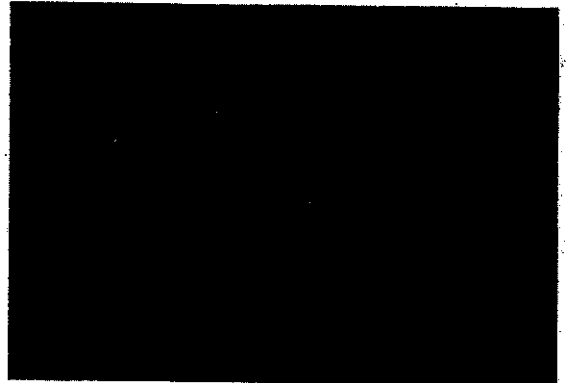
佐渡旅行実行委員 山口 美喜男

私はこの施設に入所をしてまだ間もないのですが、7月に行われた「援護寮」メンバー参加の佐渡旅行の実行委員として抜擢されました。当初、私は委員としてどんなことをしているのかわかりませんでした。しかし、スタッフの方々にいろいろと協力をしていただいて、旅行当日まで委員やスタッフが集まって、点呼や食事の時の声かけなど綿密なミーティングを重ねました。私達委員としての気持ちは、何とかこの宿泊旅行がメンバーの皆さんをはじめ、参加される全ての人にとって意味のある又心に残る様な旅行にできればと願っていました。

そして、旅行の日はすぐにやってきました。私達委員としても気合いが入ります。今まで幾度となくミーティングを重ねてきた成果が試される時です。やっぱり私達委員の立場としてはこの旅行に参加された皆さんが「良かったとか楽しかった」と後になって心に残る思い出を沢山つくってほしい。又そうすることで私がこの旅行委員に関わることができて良かったなと思います。

出発当日の朝は少し肌寒い陽気でした。でも皆さんは朝も早い時間なのに眠そうな素振りも見せないで、どちらかというと期待に胸を弾ませている様な明るい表情をしていました。私はこの旅行が皆さんにとって何か少しでも得て来れるものがあるそんな一泊二日になればいいなと思いました。

バスに乗ると私達は早速点呼をとりました。最初のうちはやはり皆さんの声は小さかった様に思います。それから数分後に龍野施設長より今回の旅行に寄せてお話がありました。私も初めての参加だったので全く知りませんでした。毎年恒例となっているこの宿泊旅行ですが、援護のメ



メンバーが揃って全員参加できたというのは今まで無かったそうです。今回は全員が揃って参加できた。まずこれが第一に意味のあることのように思いました。

私は団体での旅行というのは思い返せば学生以来のことなので、どんな旅行になるのか内心楽しみと不安が入り混じった感じがしていました。

私自身の委員としての仕事はあまり大層なことはしていませんが、現地での各施設や移動時に人数確認の為点呼をとったり、宿泊先で主となって食事等の誘導・声かけをしました。何度か点呼なども行うにつれて少しずつですが返事をする声も大きくなり、メンバーとしての連帯感も生まれてきた様に思いました。私は正直、団体旅行と言っても全員が一つの事に従うというのは、やはり個々の人間なので難しい面も沢山あるかなと思っていました。しかし、そのような考えとは逆に一人一人がちゃんと自分の立場というものを理解して、和を乱すことなく、それどころか互いが相手の立場に立って物事を考え、気を遣ったり、協力して、譲り合う気持ちを持って、生活できたと思います。そしてこの事が何よりこの旅行で意味があった様に感じました。

いつも同じ所で生活をしていると大抵のことに慣れてしまうもので、人の事まで考える機会が少ないけれど、時に違った場所で生活を送ってみるといろいろな人のいい面がいっぱい見えてくるんだなと実感しました。

きっとこの旅行を通して限られた時間だったけど、皆さんはお金などでは決して手に入らない大切な何かを得て来たことと思います。この旅行がただ楽しく遊んで来たというだけでなく、人との繋がりを改めて学んで来た様に思います。旅行は終わってしまいましたが、この旅行で得て来た気持ちや想いを今後の生活へと何等かの形でプラスにしていければと思います。

最後に、全員が無事に旅行を楽しんで来れたことが委員をやらせて頂いた上で喜ばしい事に思います。一泊二日全員参加の旅行本当に良い思い出ができました。スタッフをはじめ関係者の皆様、又メンバーの方々に本当にありがとうございました。

## トピック② 音楽グループ

### 今年度の活動状況

今年度は、昨年度の活動に増して、施設外での演奏に力をいれてきました。主に活動の中心を担ってきた「リンリンリンりんどーず」は12人編成のバンドで、メンバーとスタッフで創ったオリジナルの曲や有名な曲などを演奏してきました。また「ライフサポート①号」は3人編成のバンドで、こちらもオリジナルのラップを披露したりと、クールに活動を支えてきました。

活動報告として、9月13日精神保健福祉センターで行われた「あった会」、10月5日若槻公民館で行われた「若槻文化芸術祭」、11月16日サンアップルで行われた「アートフェスティバル」、11月27日若里文化ホールで行われた「精神保健福祉基礎研修」と数々の舞台を踏んできました。舞台経験を重ねるごとに、皆が自信をつけていく姿が印象的でした。今年度の活動を活かし、来年度は老人ホームなど他施設への演奏訪問ボランティア、地域行事への更なる参加等、柔軟さとユニークさをプラスした活動を目指している次第であります。



# 長野りんどう会後援会たより Vol.8

『心に障害を持っていても、  
地域社会の中で普通に生活していられるように』

— 長野 りんどう会後援会はサポートします —  
あなたのご入会を！ ご理解とご支援を！

福祉予算の削減など重いニュースもありますが、みなさま方のご支援をいただき、「ライフサポートりんどう」では、自立を目指し、社会復帰、社会参加のための訓練に励む利用者の方々が、ご家族および地域関係者の期待の中、四施設それぞれに於いて、日々熱心に活動に参加しておられます。

「上野の家」の共同住居・地域生活支援センター「スローステップ」などの増設や、活動内容も、職員の方の工夫と努力が重ねられ、より充実してきております。

引き続き、来春援護寮を退所される方のための共同住居が必要となり、現在準備中です。

後援会としても、みなさま方の物心両面にわたる引き続きのご協力をお願いしながら支援をしていきたいと思っております。どうぞ周囲の方々にもご理解とご協力の輪を広げてくださいますよう、よろしく願いいたします。

日頃、後援会会員のみなさまのご支援にご協力に心から感謝いたします。

## ●ご入会ありがとうございました 平成15年度後援会会員 (15. 7. 1~15. 11. 25)

桜沢 はな・富岡 好雄・龍野 由子・内山かつ子・山田 隆三・匿名 遠藤 賢吉・遠藤登美子・片桐 頼子  
山岸 優・大谷 修史・水橋 励次・小林由利子・小原 明行・関谷 和夫・関沢 忠治・北村 泰雄・伝田 未治  
久保田喜美子・竹内 恒子・東福寺直道・小山 尚美・小池のお江・竹内 道子・白田 順子・匿名 堀内 幸枝  
大岩 洋和・小宮山紀道・千村 幸久・筒井 健雄・大久保聖子・塙 正文・滝沢 正洲・野沢 範子・矢島 勝子  
今井 俊男・登内 尚二・望月 峻成・望月 正子・小沢 麻紀・三沢 孝義・平林 伸一・宮坂ふさ子・原 紀子  
月岡方佐廣・庄村 栄子・伊藤 敏・小松 茂・藤沢 寛美・一村 虎子・今井 修・今井 晴次・青木 静子  
伊藤 信義・北村 礼子・丸山はる代・宮沢 節子・古越 典雄・田中 恒孝・石川田鶴子・和田 陽子・池田 純  
副田 孝子・大久保由美子・松林 明子・高野キヨ子・金児婦美子・奥村 優子・青木 留春・三上 和子・高野 明子  
伊藤美智子・宮崎 音和・中村 智子・林 章男・高倉 郁子・高木 文子・桂 和重・百瀬 静江・中澤 豊  
足助 生馬・村松 亮勇・花岡 輝次・金井 良子・高橋 紀夫・山岸あつ子・宮崎 忠昭・滝川 健三・宮島 研一  
一之瀬幸徳・山田 良一・北澤 二郎・佐藤 弘一・有馬 久恵・有馬 裕子・畑野 明子・柳沢 貫一・古谷 睦子  
高木つた江・宮島 利子・下嶋 玲子・内山 和子・西沢 幸子・鈴木百合子・赤塚 武光・小山 恵里・高橋 脩  
竹中 禎子・塚田 稲子・野沢 昌寿・錦織 京子・小林千代子・中谷 千元・関 梅男・和田 信義・増田 愛子  
小林 澄江・今井 民子・和田 伸子・夏目 寛子・藤沢 敏明・鳥原千代子・北澤すみ子・中村 信夫・酒井 皓次  
長谷部乙生・山本 裕子・勝山八重子・戸谷美和子・青島喜美江・青島 ゆき・菅野 暁・小林 英子・小澤つね子  
駒村 康子・関 圭子・金井 咲子・山本 秀行・宮澤マサ子・宮沢 重光・原山 米子・塚田ゆみ子・清水てる子  
藤沢 広信・橋本精市郎・広瀬 武二・広瀬 春子・宮坂 貞夫・吉沢 教子・野口 紀美・花岡 脩三・小山 峰男  
高橋小奈美・小宮山直道・矢嶋 嶺・斉藤 勝美・小林 成子・倉島かつ子・小山 松代・松浦 節子・植木 修一  
高見沢幸子・竹内 憲一・古籴 幸子・小口 由子・西川 節子・玉井幸一郎・白倉 和子・宮入 幸子・田尻裕貴江  
丸山 行雄・中野 裕子・長谷川さだ子・角田 恵子・吉岡 和子・塩沢 総夫・清住 惇子・丸山 恵子・笠原 容子  
塩入 京子・安念 泰子・河原 幸雄・坂口 洋子・高野 順子・深沢美津昭・星乃 みわ・黒岩 厚・鳥橋 祥子  
牧 房江・御子柴 弘・井沢 武則・跡部 守男・中村 房江

要屋(株)・松本HC管内保健婦26名・かとうメンタルクリニック 加藤 信・フタキ薬局 二木秋雄・UCC上島珈琲(株) 大久保の茶屋 西 善秀・若槻診療所 今井良夫・第一印刷(株)・おおた調剤センター おおた薬局・医療法人白寿会 高橋内科 高橋俊博 (医)誠心会 小島直彦・県看護大学 池田紀子・(株)石橋ライフヘルパー 石橋・鶴田メンタルクリニック 鶴田 武彦・小林脳外科 小林 聡 丸山茂里子・井上 高・丸山 菊江 (前回の会報に記載もれでした。お詫びして訂正いたします)

(敬称略)

＜平成14年度 (14.4.4.1～15.3.31) ご入会の会員のみなさまへ＞

1年間のご支援に感謝申し上げます。

引続き、平成15年度会費の納入にご協力をお願い致します。(すでに納入済みの方はご容赦下さい)

★入会の申し込み会費振り込み先

後援会事務局 〒381-0041 長野市大字徳間字三反田3222

ライフサポートりんどう内

Tel 026-239-7077 Fax 026-239-7070

会 費 年 額 1 口 2,000円

郵便振替00530-1-67679	口座名義 (郵便局・銀行) 長野りんどう会后援会
八十二銀行長野北支店 (普) 314603	

◎振り込みをもって入会とさせていただきます。

◎ご入会いただきました方には会報をお届け致します。

今年度も半ばになりましたが、計画通り喫茶りんどう等通所授産施設、地域生活支援センター「スローステップ」での活動又ライフサポートりんどう行事への参加をして来ました。

9月には、独自の研修会を実施しました。いままでは他施設の見学や研修でしたが、講師を招き「ピアカウンセリング」について学びました。今回は初歩のところですが、多くの会員が参加出来ました。2回目を11月に実施しました。

その他、長野市精神保健ボランティア連絡研修会、心をつなぐりんどうの集い&あった会、心の健康を考えるつどい等に参加しました。

ラ・サ・りんどう会長 金子 照子

① のんきな八百屋から

日本一呑気で小さい八百屋の営業成績は、売上金41,533円でした。これは、ラ・サ・りんどうの活動資金になります。

② 家族会・古紙回収事業から

資源を大切に！地球を汚さない！を目標に古紙回収をしました。段ボール450kg、雑誌1,850kg、新聞紙1,160kgでした。報償金は申請中です。今後も搬入をお願いします。

野菜を提供くださったTさん、Hさん、古紙を搬入いただいた皆さんに紙上からお礼申し上げます。多くの方々のご支援で「りんどう」が元気に花を咲かせます。

編 集 後 記

師走の気ぜわしさと、新たな年への期待感とで何となく落ち着かないこの頃です。

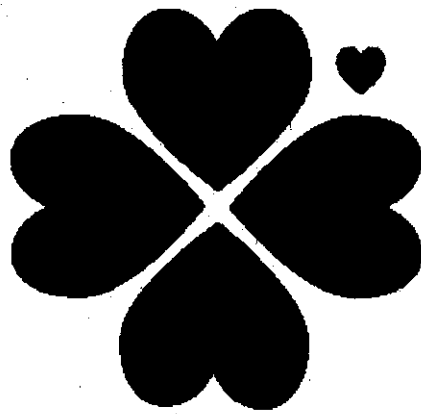
今回は、平成15年度上半期の事業を中心に掲載致しました。ご高覧頂きまして、忌憚のないご意見等をお寄せ頂ければ幸いです。

(大谷記)



海老名の精神保健福祉を考える

# 心のバリアフリー2004



日 時 平成16年1月15日(木)  
午後1時～4時

場 所 海老名市文化会館 小ホール

主 催) 海老名市精神保健福祉地域交流事業実行委員会

2πr、つばさ、たなからぼたもち、海老名総合病院  
愛光病院、相州病院、海老名メンタルクリニック、  
第2レザミ工芸、コンパス、ぼむ(就労援助センター)  
社会福祉協議会、精神保健福祉センター、  
厚木保健福祉事務所、海老名市

後 援) 厚木市、座間市、愛川町、清川村  
海老名市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)  
厚木ヤクルト販売株式会社  
第一生命保険相互会社 厚木支社 鶴間支部